

## 21世紀元年「知恵と工夫を」

チッソ旭肥料株式会社

副社長 柴 田

勝



21世紀元年を迎え、例年になく心改まるお気持ちで新年をお迎えのことと思います。

読者の皆様方におかれましては、本年が実り多い一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

昨年日本経済は緩やかな回復基調にあると報じられておりましたが、倒産件数に見られるように決して安定領域にはないと認識せざるを得ない感があります。昭和49年オイルショック時と同等の重油価格になっても円高のおかげで危機感は迫ってきませんが、日本経済は相当不安定な状況にあると思われまふ。経済の再生が着実に進むことを期待するものです。

さて、昨年施行された「新農業基本法」に基づき平成22年に「食糧自給率」を45%に向上させる指針は具体的に麦や大豆などの転作が増加するなど目標に向かって第一歩を踏み出しました。しかし農業生産環境に目をやれば、お米が豊作だったことから今年も水田減反が拡大され110万haに達すること、セーフガード発令の要請が検討されるほどの生鮮野菜類の輸入が拡大し、水稲・畑作とも作付け面積の減少が必至と見られる厳しい情勢が続いております。肥料需要環境も循環型農業の

移行も加わり、引き続き厳しい一年になるものと予想されます。

これまで弊社は肥効調節型被覆肥料「LPコート®」「ロング®」、化学的緩効性肥料「CDU®」、泡状高度化成「あさひポーラス®」、園芸床土「与作®」、打ち込み肥料「グリーンパイル®」などを開発し、皆様方のご支援、ご要望を頂戴しながら特徴ある商品として育ててまいりました。今年はいこれらの商品を一層リファインすると共に農業をめぐる新しい施策の展開や需要環境の変化は新しい技術を生み出す機会でもあると考えて、新商品開発に取り組む元年にしたいものと決意しております。

「農業と科学」は皆様方のご支援のおかげで昨年発行30年を迎えました。新しい情報伝達の仕組みができあがろうとするIT元年にのぞみ、編集内容を一層充実させるべく工夫してまいりたいと願っております。皆様方からのご投稿、ご意見、ご批判をいただきながら進めてまいりますので、本年もよろしくご愛読いただきますようお願い申し上げます。

### 本 号 の 内 容

§ 21世紀元年「知恵と工夫を」..... 1

チッソ旭肥料株式会社

副社長 柴 田 勝

§ 歴史の中の肥料 — グアノ物語 4 ..... 2

京都大学名誉教授

高 橋 英 一

§ 施設軟弱野菜の持続的安定生産のために..... 6

富山県農業技術センター

野菜花き試験場 野菜課

課 長 松 本 美 枝 子

§ 温州ミカンの葉面散布による窒素吸収..... 11

静岡県柑橘試験場 西遠分場

主任研究員 吉 川 公 規